広南学園　道徳研究通信

令和５年１１月３０日
NO．０４

１１月２１日（火）９年生の授業研究を行いました。中学３年生の意見は語彙力が豊富で意見の質の高さを感じましたね。一方で，授業では生徒の発言に対して，切り返し問い返していくことの大切さ難しさ，さらにそのために教材の深い読みの必要を感じる協議会となりました。今回で学園研究が最後となりました。今後９年間を通して，議論するイメージを共有したり，全体の場で考えをどう出していって考えを広げたり，深めたりできるかなど，整理していきましょう。西本先生，授業提案ありがとうございました☆

令和５年１１月２１日（火）　第９学年
主題名　法や決まりの意義　　内容項目　C10「順法精神，公徳心」
教材名　「二通の手紙」　出典　東京書籍

【授業者より】
・道徳になるとなかなか自分の思いを表現できない実態があるので，教材を事前に読み自分の考えをロイロノートで提出させた。
・「思いやり」ではなく「規則があることで安心，安全がある」としたかったが，人を喜ばせることができて満足の方に寄ってしまった。どのようにすれば規則につなげられただろうか。

【協議】
＜導入＞
・事前に教材を読ませ，「自分だったらどうするか」，「大切だと思ったことはどんなことか」について考えをもたせておくことで，個人思考として深く考えることができていた。
・生徒の感想を取り入れることで，生徒の言葉を使いながら，めあて「きまりの意義」をスムーズに提示することができた。

＜中心場面＞
・「晴れ晴れ」という言葉から生徒にとって元さんの行動へ肯定的にとらえていってしまった。（自分で決めたこと，楽しんでくれたから悔いはない？）元さんが気付かされたのはそこではなく，二通目の重みであり，懲戒処分に納得した部分の理解が難しかった。二通の手紙を拡大して提示し注目させる，元さんが処分に納得したのはなぜかを深堀する，佐々木さんは納得していないことを問うなどの方法があったかもしれない。
・佐々木さんは決まりについてどう思っているのか，佐々木さんの思いを考えさせるのはどうだっただろうか？
・切り返し発問「いい仕事をしたなら辞めなくてもいいのでは？」の後，話し合う時間があれば，決まりが大切という意見もひろえたかもしれない。

・思いやり対規則の対立。もう一度，「自分だったらどうするか？」で再度投げかけても良かったのかもしれない。

＜交流＞

・グループの中では，「違うんじゃないの？」「本当はこれではいけないと後輩に示すためにやめた」など話し合ったり，うなずいたりしながら友達の考えを聞いていろいろな意見を述べ合えていた。

＜まとめ＞

・決まりの意義を具体的な場面につなげて考えられていて良かった。より考えを広げたり，深めたりする手立てはないだろうか。

【指導助言】

兵庫教育大学　谷田増幸教授より

・教材の理解について

普通に考えたら，「入れる」の方に共感し，引っ張られるだろう。

教材を分析すると，以下のことを押さえる必要がある

幼い二人を園に入れた元さんの無責任さ

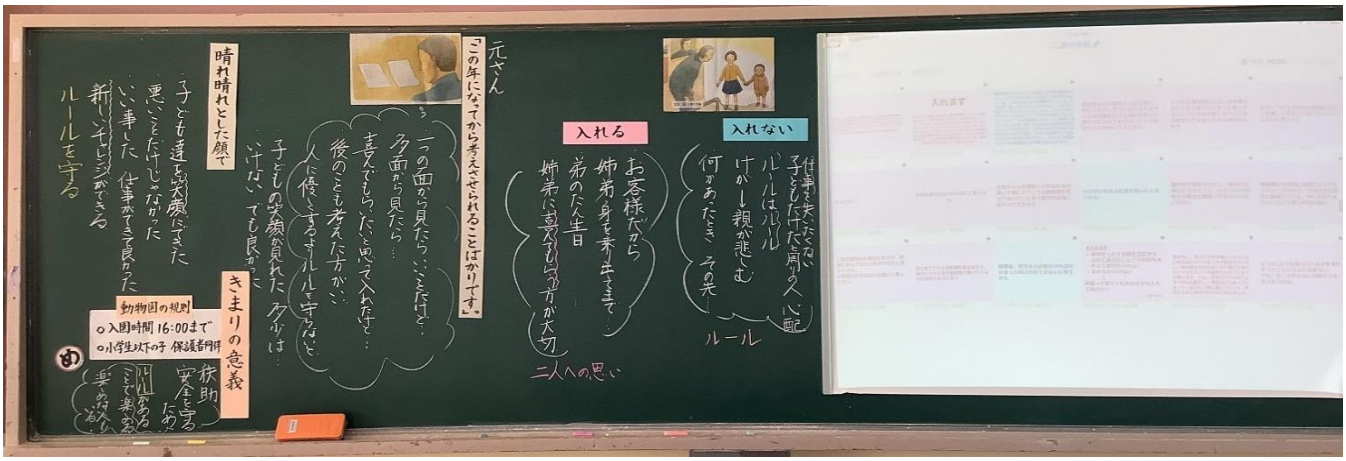
決まりを破った自分を懲戒処分とした会社として尊敬できる，この会社なら大丈夫だ，安心して任せられると思った，だから晴れ晴れとした顔だった

晴れ晴れとした顔だと思ったのは「佐々木」。元さんはそうせざるを得なかったのかもしれない。

元さんの教訓が現職の佐々木や山田に生きていること

・自分だったら，「え？秩序って何？」「無秩序」「決まりがないってどういうことなんだろう？」と突っ込んで攻めていくだろう。

IMG_1288.HEIC

・今後に向けて

- 教材をどう解釈する？
- 教材理解を中心にしていくのか，議論中心にしていくのか？
- 攻めるの？受容で進めるの？
- グループでの話し合いを全体の場でどう出していくの？
- 考え議論する姿をどうする？イメージを共有する？